



Koryo 陵 雲 High School

〒081-0011 青森県八戸市田向三丁目2番6号 / 電話 0178-44-8866 / FAX 0178-48-9077
https://kouryo-high-school.com / E-Mail kouryo@chibagakuen.ac.jp

青森県総合文化祭



太鼓部初出場

郷土芸能部門 優良賞

10月20日(日)、第45回青森県高等学校総合文化祭が行われ、青森市で5部門が実施された。5部門のうち、青森明の星中学・高等学校明の星ホールを会場とした郷土芸能部門に本校太鼓部が初出場。参加校4校の中で本校は部員数6名と出場校の中では最小人数であった。しかし、他校と比較するのではなく6名で織りなす『五色神』の音色と小人数だからこそできる表現で自分たちの演奏に集中し発表に臨んだ。高総文初出場を果たした部長の三ツ井諒輔さん(3年・階上中学校出身)は「とても緊張しました。結果は優良賞でしたが、同年代の人たちの前で演奏できたこと、同年代の人たちが頑張っている姿を見て刺激になりました。頑張ってきた良かったです。顧問の小川先生、コーチの大柳さん、保護者の方々、応援して下さいました皆さんに感謝します」と感想を述べた。1年生のときは、新型コロナウイルスの影響でイベント参加もままならなかった状況を考えて、3年間の集大成として高総文に出場できたことは感慨深い。

東京演劇集団 風 KAZE

芸術鑑賞会



《生徒感想》
・私は普段、誰かが困った時、上手に励ますことはできていないかもしれませんが、自分なりに頑張ってお励ますようにしています。
・私は別に自分は「孤独」でもないかと思いましたが、人はいつかさみしくなっていくのだと感じました。そんな時に頼れる友人や家族がいると、その人たちが元気づけてくれることがあると今回の演劇でわかりました。
・自分もハロルドのようにそっと肩に手を置き、元気づけてあげられる人になろうと思います。
・自分が辛い時、自分には助けられない人がいないかと思いましたが、自分が気づいていないだけで、人には必ず誰かが寄り添っていると感じることができました。



10月4日(金)、芸術鑑賞会兼親子で聞く講演会を行った。演目は、東京演劇集団風さんによる演劇『Touch』(1985年にシカゴで上演され、オフブロードウェイで絶賛を浴び、1987年には映画化もされた作品。)会場に入った生徒たちは、体育館に突如現れた舞台セットに驚き、感嘆の声を上げていた。生ならではの役者さんの息づかい、表情の変化やしぐさ、声の調子を感じながら最後まで目を輝かせ鑑賞した。人の心に思いを馳せることの素晴らしさ、相手と向き合うことの大切さを実感した時間となった。
『Touch』孤独から愛へ』(原題『ORPHANS』孤児たち)』
あらすじ
舞台は、北フィラデルフィアのアパートの一室。アレルギーの発作でほとんど外に出られない弟フィリップと、不良の兄トリート、2人の孤児の兄弟は彼らを「デット・エンド・キッド(行き止まりの子)もたち」と呼び、「元気づけてあげよう」と手を差し伸べる。次第に心を開いていくフィリップ、それとは対照的に触れ合いを拒絶するトリート。「孤児」である3人の出会いが、孤独を抱えながらも、真剣に相手と向き合うことで、新たな一歩を発見していく。

サッカー試合結果



《高田宮杯JFA U-18サッカーリーグ 県1部2回戦総当たりラウンド》
○10月5日(土) 向陵 1-5 光星
《得点》大欠 風吾(2年・白銀南中学校出身)
最終順位 8位 1部リーグ残留決定
《第103回全国高等学校サッカー選手権青森県大会》
○10月12日(土) 向陵 2-1 青北
《得点》佐々木聖空(3年・千葉市立平城台西中学校出身)
出川 憐(3年・白銀南中学校出身)
○10月13日(日) 向陵 0-1 弘実
第103回全国高等学校サッカー選手権青森県大会において、本校は1回戦青森北高と対戦。2対1で勝利したが、部長の佐々木聖空さんが相手選手との接触により頭部を3針縫う怪我を負った。2回戦は、向陵のパスサッカーで繋ぎ、何度も相手ゴールを脅かしたが得点につながらず、PKで与えた1点に泣いた。負傷ながらも試合を率いた部長は、「負けはしましたが、向陵のサッカー、自分たちらしいプレーをすることができたので悔いはないです。応援して下さいましたので感謝します」と試合結果を報告した。試合直後はピッチに崩れた部員たちだったが、結果報告では晴れ晴れとした表情を見せた。

10月8日(火)

ゴルフ・スポーツ講座

1年 頼住 隆汰(厚木市立小鮎中学校出身)
 初めてゴルフに挑戦しました。自分が思っていた以上にボールに当てることができなかつたり、真っすぐ飛ばなかつたりしました。そこで、クラブを変えてみたり、打つフォームを修正したり、上手く打つための工夫をしました。工夫することで最初との違いが自分でもはっきり感じるようになりました。また、自分だけで楽しむのではなく、友だちと教え合っていくことで、互いに成長できたし一緒に楽しむことができました。



3年 板橋 宙(長者中学校出身)
 3年連続のゴルフコースでした。これまでの経験もあり、初めから飛ばすことができたので気持ちよかったです。3年間やってわかったことは、腕の振りだけではなく、足も大事だということです。直立でスイングすると軸がブレて遠くまで飛ばせず、効率が悪くなります。足に力を入れ、体重の移動を利用しながら打つと少ない力で15メートル以上飛ばすことができます。楽しんで休憩を忘れるので、毎回腕が上がりなくなるほど疲れてしまいます。社会人になると、こういう機会も少なくなってしまうかもしれないですが、集中して一つのことを楽しむのたまにはいいと思いました。



- 【ニアピン賞】**
 女子の部 1年 山田美結(根城中学校出身)
 3年 成田 葉純(東中学校出身)
 男子の部 3年 大山 卓真(藤沢市立秋葉台中学校出身)
【飛距離賞】
 女子の部 3年 成田 葉純(東中学校出身)
 男子の部 1年 青池 結心(下長中学校出身)

ボウリングコース



1年 上野 未歩(おいらせ町立下長中学校出身)
 最初に施設の方からボウリングについて説明していただきました。例えば、レーンの両脇にある溝をカッター、ファールライン手前にある七つのドットをリリースドット、ボールを投げる狙いの三角形のマークをスパットということなどです。また、隣のレーンと同時に投げると、ボールが重くて硬いので、相手に怪我をさせたり、自分が怪我をしたりするので、譲り合いや思いやりが大切なことがわかりました。実際にボールを持ってやってみましたが、最初は上手くいかず、とても難しかったです。さらに、ボウリングのピンを立てるピンセッターの裏側を初めて見ました。たくさん機械が、流れてくるピンやボールを回収しているのを見て驚きました。今回のボウリングでトータール141を出すことができました。また来たと思いません。普段見ることができない部分を見たり、知らなかったことを知ることができたので良い体験となりました。



- 【2ゲーム合計得点】**
 女子の部 1位 3年 三浦 未有(是川中学校出身)
 2位 2年 土橋 うる(第一中学校出身)
 3位 2年 高橋 流那(大館中学校出身)
 男子の部 1位 2年 田所 陽斗(根城町立根城中学校出身)
 2位 3年 船田 悠成(第一中学校出身)
 3位 2年 松川 和馬(白台台中学校出身)

バッティングコース



2年 小田 紗織(江陽中学校出身)
 講座中、普段あまり話をしなかった人が一緒に過ごしました。2人ともノリや趣味が合い、居心地がとても良かったです。バッティングは、最初は低速でなんとか打てる程度だったので、慣れてくると25キロメートルでも打てるようになりました。新しい友だちもできましたし、バッティングも少し上達したので、充実したチャレンジ講座でした。



2年 佐藤 蕾咲(南足柄市立足柄台中学校出身)
 人生で初めてバッティングセンターに行きました。初めてだったので、やり方もわからず、先生に教えてもらってやっと挑戦することができました。実際にやってみると、どこにボールが飛んでくるかわからないし、高いボールなのか、低いボールなのかわからなかったのが怖かったです。ボールが来て、バットを当てるのに精一杯でした。バットにボールが当たっても遠くに飛ばすには、腕の力、全身の力がバットに伝わらないとボールに押し負け手首を痛めそうでした。だから、野球選手は腕や肩の力を鍛えているのだと思いました。スポーツの種類によって使う筋肉が異なり、奥深いと感じました。バッティングだけではなく、ほかのスポーツでも他の学年と交流できた良い一日でした。

ボルダリングコース



2年 細越 優希(第一中学校出身)
 初めてやってみましたが、ボルダリングはたくさんの技術が求められる競技だと知りませんでした。自分が思っていたよりもずっと難しく、指が痛くてあまり登れませんでした。しかし、慣れてくるとたくさんコースをクリアできました。それでもスタップの人や友だちは、レベルの高いコースを軽々と登っていて、自分もその域まで達したいと思いました。想像以上に疲れましたが、またトライベートでも行きたいです。



3年 中村 昊之輔(下長中学校出身)
 初めて、本格的なボルダリングに挑戦しました。小さい頃に、子供のボルダリングの経験はありましたが、本格的なものは初めてでした。体験してみても、ボルダリングは面白いです。講師の方に教わりながら、何度も挑戦し、最初のオレンジテープは6個中5個クリアできました。でも残りの1個が何回やってもクリアできず悔しかったです。次のレベルの赤テープも2個クリアでき、達成感がありました。午後はチーム戦で試合をしたり、壁を1周回るゲームをしました。とても難しかったですが、半分以上進むことができましたので良かったです。最後に一番難しいコースに挑みました。手や足をどこにおいていいかコース取りも思いつきませんでした。上手な人がやっているコースを見ると、レベルが高すぎて驚きました。普段サッカーをやっていますが、腕、お腹、背中、体中全部を使い筋肉痛がひどかったです。特に腕、力が入らなくなった掌が痛みますが、それ以上に面白くて、ボルダリングはまた挑戦したいと思ったスポーツです。

トランポリンコース

1年 小泉 一花(大館中学校出身)
 トランポリンを跳んでみると、「楽しい」「すごい」「跳んでいる」といった気持ちでした。私は高所恐怖症でしたが、跳ぶのが楽しくなりました。気づいたら高いのも怖くなくなっていました。楽しさから、技を失敗しても次も頑張ろうと前向きになることができました。特に開脚技が楽しかったです。最後の方は、トランポリンをしながらしりをしました。しりとりと言っても技をつなげていくものです。初めの人から腰落ちをしたら、次の人が腰落ちに技を付け足して2つの技をやり、技の数が増えていくといったゲームです。自分の番が来たときは絶対に負けたくないという気持ちで跳びに行き、勝って嬉しかったです。

1年 木田 明秀(白台台中学校出身)
 前回、トランポリンをやったときより上手くなっていると思います。今回は新しい技に挑戦したいと思い、前宙返り、前宙にチャレンジしました。初めは、怖いし上手くできませんでしたが、講師の先生に指導してもらいながら体を縮めたり、足を抱え込んだりして、できるようになりました。技が決まるとやっていると楽しかったです。

